2025 大振袖

花嫁お色直し大振袖（おはしょり）着付・帯結びは相生(あいおい)とする。
通常、披露家でのお色直しとして用いられるもの。
競技は、「化粧、かつら装着、ボディ修正、長構神着付」までの作業と「大振袖着付、帯結び」の作業に分けて行う。
長襦袢着付までの作業は監視委員立会いの下に控室で行い、「大振袖着付、帯結び」の作業は競技ステージで行う。
長襦袢及び大振袖の衿とじは、事前に済ませて来るものとする。(長襦袢の衿芯は自由とし、三河芯に半衿をつけたもの、その他、特別に考案・加工されたものも可)

資格：免許取得者

競技時間

長襦袢着付までの作業　　控室にて作業・・・・・・・20分
大振袖着付、帯結びの作業　競技ステージにて作業・・・25分

競技に関する制限及び禁止事項

※違反した場合は、減点もしくは失格となる。

[禁止事項]

1. 競技中、選手同士又はモデル・観客と会話等をしてはならない。
2. 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
3. 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、監視員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
4. 帯に形付けをしたり、帯結びの過程につながる過度のたたみ方をしておくことは認めない。(抱え帯を含む)
5. 帯や着物などに糸印をつけておくことは認めない。
6. 着物及び長襦袢のふり合わせは、とじてあってはならない。
7. 帯あげは縫ってあってはならない。
8. かつらの下地作り、あるいはかつらに、くし・こうがいなどを取り付けておくことは認めない。
9. 極端に完成されたボディ補正用具の使用は認めない。
10. ボディ補整のパットやタオルはとじ付けてあってはならない。

11. 肌着の下にブラジャー等（和装用を含む）の使用は認めない。
12. おはしょり芯の使用は認めない。
13. 袖の錘用の板紙等の使用は認めない。
14. ものさし類の使用は認めない。
15. モデルは競技開始前に、えり・顔に化粧、パック(コットンパックを含む)がしてあってはならない。
16. モデルは競技中はもとより、控室にあっても化粧施術を禁止する。（アイテープ及びつけまつ毛を使用する場合は、選手が競技時間内(80分)に付けること。）
17. モデルが、ひも、伊達巻、帯びあげなどを結ぶことは認めない。(ただし、ひも、伊達巻、帯あげなどを腕にかけたり、手に持つことは差し支えない。)
18. モデルが、袖、衿元、裾などを修正することは認めない。(ただし、たもとを持ち上げること及び衿合わせを押さえることは差し支えない。)
19. モデルが、かつら装着を手伝うことは認めない。（ただし、ネットやハチマキを押さえることはさしつかえない。）
20. 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
21. 助手の使用は一切認めない。（ただし、競技用具の搬出入のために、係員の指示に従って助手を指定した場所まで立ち入りさせることはさしつかえない。）

[制限事項]

① 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの(色、柄は禁止)、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする。(ミニ丈は禁止する)靴は、ヒールの低いものとする。(ブーツは不可)
② 帯結びの型については、立て矢系の「相生」とする。
③ 帯あげは、入りの字型とする。
④ 帯じめは、中心で結ぶこと。
⑤ 前身頃の衽の縫目と「おはしょり」の縫目はそろえること。
⑥ 長襦袢及び大振袖の衿とじは、事前に済ませて来るものとする。(長襦袢の衿芯は自由とし、三河芯に半衿をつけたもの、その他、特別に考案・加工されたものも可)

[衣装持ち込みに際しての禁止事項]

大振袖

- 身幅にアールをつけて胴部を絞った仕立ては認めない。
- 比翼(裾)は、つけてある所から、裾ふきまで一切表布にとじてあってはならない。
- 立て褄の比翼は、胴裏につけてある所から衽つけで表布にとじてあってはならない。
- 芯を入れるなどの加工をしてはならない。
- 袖付にあて布があってはならない。

長襦袢

- 衿は白無地とする。
- 上下セパレートのものは認めない。
- 巡礼衿で良い。
- 後衿の力布はあってはいけない。(抜き用の細ひもは可)

帯と抱え帯び

- 特定のひだの折り癖が強くつけられているものは認めない。

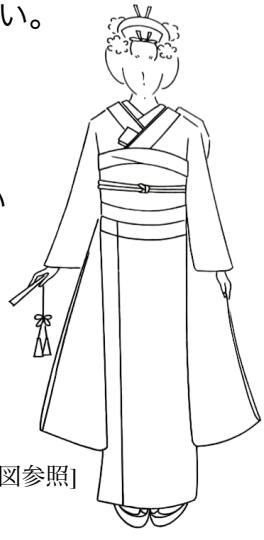
着付小物

- 肌着、裾よけ、帯枕は特別に考案・加工された特殊な型式のものは認めない。
- コーリンベルトの使用は認めない。

※競技用具は、大会当日の朝、競技前に監視委員が厳重に点検を行う。

その他の注意事項

1. 帯結びに使用するひもは、腰ひも又は何重のゴム仮ひもでもよい。
2. 立矢の帯の中に芯を使用してもよい。(ただし、大振袖着付・帯結びの作業時間内(20分)で行うこと。)
3. アイロンは使用できない。
4. 控室で電源の使用は禁止する。
5. 競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
6. 審査はモデルが草履を履いた状態で行う。
7. 審査中のモデルのポーズは図のとおりとする。[資料図参照]
8. 競技時間内に出来上がらないもの(クリップの取り忘れ、草履を履かせてないもの等)は未完成とし、審査は行わない。



[資料図参照]

競技用具の準備（選手が準備するもの）

(a)①大振袖(事前に衿とじを済ませたもの)　②丸帯

③長襦袢(（事前に衿とじを済ませたもの。衿芯は自由とし、三河芯に半衿をつけたもの、その他、特別に考案・加工されたものも可）④帯じめ　⑤帯あげ　⑥抱へ帯　⑦はこせこ

⑧扇子(扇面は金、銀ものも)　⑨草履　⑩衣装敷(紙)

⑪衣装箱(ベージュ＆赤色で高さ18cm位の一般的に使用されているもの)

(b)かつら(文金高島田)

(c)こうがい(前挿しと後挿しは揃いのもので、片挿しは不可)

(d)前櫛（特味な加工がされていない櫛型で、前髪に挿すこと。補助櫛が付いたものは不可）
※角かくしは不要。
※こうがいをつける時、特殊な用具(こうがい用マジック等)の使用は禁止する。

(e)小物付属品「足袋、肌襦袢、裾よけ又はワンピース型肌着、腰ひも、仮ひも、伊達巻(2本)、ボディ補整用具(綿花、タオル、さらし又はガーゼ類)、帯枕、帯板、クリップ」

(f) 化粧用具一式。

(g)裁縫用具一式。

審査基準

通常披露宴でのお色直しとして用いられるもので、技術性、調和性を勘案した総合審査とする。

採点方法：６０～１００点

審査時間：２０分

失格事項

- 規定違反、競技時間の超過、競技終了後の修正、待機中に選手以外の者が、モデルに触れたり手直しがなされたとき。　競技終了後は所定の場所に待機していること。

選手心得

- 会場への入場時間を間違えないこと。
- 受付にて各人の出場番号の決定を受けること。
- 選手は最後の表彰式まで参加すること。
- 会場では、マナーに気をつけ、ゴミ等は所定の場所におさめる。

表彰

優勝　準優勝　優秀